



# GSユアサ オートバイ用バッテリー 取扱説明書

このたびは、「GSユアサ バッテリー」をご購入いただき誠にありがとうございます。

バッテリーを正しくお取り扱いいただくため、バッテリーをご使用前の前や、点検の前に、本取扱説明書やバッテリー本体の注意表示をよくお読みください。誤った取り扱いをすると、引火爆発、焼損、破損、液漏れ、車両損傷、失明、やけど、けがなどの原因となります。本取扱説明書はお読みいただいた後もお手元に大切に保管してください。

尚、ご不明な点をご購入店または弊社にご相談ください。



説明書熟読

## 目次

●ご注意(必ずお守りください).....1-4	●使用中の点検.....9
●使用前のバッテリーの取り扱いと点検.....5	・補水.....9
・開梱前後の取り扱いと点検.....5	・バッテリーの清掃.....9
・注液前の取り扱い.....5-6	・端子.....9
・注液.....6	・バッテリーの充電(使用中のメンテナンス).....10
・即用式バッテリー.....7	・バッテリーの寿命.....10-11
・注液後の取り扱い.....7	●その他の取り扱い.....11
・バッテリーの取り外し、取り付け.....7-8	・使用しない場合は充電後に保管.....11
・始動.....8	・使用済みバッテリーの取り扱い.....12
	●要項表.....12-13

### 「リサイクルの推進にご協力をお願いします」

ご不要になった使用済みバッテリーは放置したり、一般ゴミと一緒に捨てたりしないでください。新しいバッテリーのご購入の販売店に引き取りをご依頼ください。



Pb

## ご注意(必ずお守りください)

●表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

	<b>危険</b> 人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容です。
	<b>警告</b> 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。軽傷または物的損害が発生する頻度が高いことが想定される内容です。
	<b>注意</b> 人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容です。




●お守りいただく内容の種類を次の表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です)




	禁止の行為を告げる絵表示です。
	「注意喚起」を促す内容があることを告げる絵表示です。
	行為を強制したり、指示したりする内容を告げる絵表示です。




## 危険




<p>■説明書熟読 誤った取り扱いをすると、車両損傷、失明ややけどの原因となります。</p> <p></p> <p>説明書熟読</p>	<p>■エンジン始動・点灯などの車両負荷以外に使用しない (補償対象外) 漏液や焼損、引火爆発の原因となります。</p> <p></p>	<p>■破裂、爆発注意 正しいご使用方法、取り扱いメンテナンスなど取扱説明書をよくお読みになってご使用ください。</p> <p></p> <p>破裂、爆発注意</p>
---	--	---




<p>■火気を近づけない バッテリーから水素ガスが発生するので引火爆発の原因となります。</p>  <p>火気禁止</p>	<p>■電解液(希硫酸)取り扱いに注意 失明ややけど、車両損傷などの原因となります。</p>  <p>硫酸注意</p>	<p>■目に電解液が入った時の処理 直ちに多量の水で洗眼し、速やかに眼科医の治療を受けてください。</p> 
--	--	---

<p>■電解液が口に入るか飲み込んだ時の処置 直ちに多量の水でうがいを繰り返し、多量の飲料水を飲み、速やかに医師の治療を受けてください。</p> 	<p>■取り扱い時は保護メガネ、ゴム手袋を着用 電解液により失明ややけどの原因となります。</p>  <p>メガネ着用</p>	<p>■こども禁止 こどもや取り扱い方法、危険を十分理解していないものにふれさせないでください。</p>  <p>こども禁止</p>
--	--	---




<p>■シール管(ゴムキャップ)は注液前に必ず外してください シール管(ゴムキャップ)が取り付けのまま注液、充電、車両への取り付けを行うと、電槽が破裂し失明、やけどや車体などが腐食する原因となります。</p> 	<p>■バッテリー、バッテリー端子の分解、改造禁止 液漏れや火災、引火爆発の原因、失明、やけどの原因となります。</p> 	<p>■バッテリー端子に過大な力をかけない 端子の破損、液漏れの原因となります。</p> 
--	--	--




<p>■金属工具などで端子と端子を接触(ショート)させない スパークにより引火爆発や火災の原因となります。</p> 	<p>■静電気に注意 乾いた布などで清掃したり帯電した身体で取り扱うと静電気を帯び、スパークによる引火爆発の原因となります。</p>  <p>静電気注意</p>	<p>■端子や取り付け金具は確実に固定する 取り付けがゆるい状態や腐食した状態で使用するとスパークにより火災、引火爆発の原因となります。</p> 
---	---	--




<p>■充電器の使用は正しく行う 取り扱いを誤ると引火爆発や火災、車両機器の損傷の原因となります。充電器の取扱説明書に従い正しく充電してください。</p> 	<p>■充電器の接続ケーブルは正しく接続し、充電中は取り外さない スパークにより引火爆発や火災の原因となります。</p> 	<p>■バッテリーを投げたり落としたり倒したりしない 漏れた電解液により失明ややけど、けがの原因となります。</p> 
---	--	--

<p>■密閉された場所で使用しない バッテリーから水素ガスが発生するので引火爆発の原因となります。</p> 	<p>■使用済みバッテリーの取り扱いに注意 電気エネルギーが残っているのでこどもが触れる場所に保管しないでください。そのまま廃棄せず、ご購入店に引き取りをご依頼ください。</p> 	<p>■バッテリーの液量はLOWER LEVEL(最低液面線)以下で使用しない 爆発の原因となります。</p> 
---	---	---

**警告**

<p>■バッテリーの交換は正しい順序で行う 順序を誤ると引火爆発の原因となります。(詳細はP7~8を参照ください。)</p> 	<p>■端子への取り付けは⊕と⊖を逆にしてない 電子部品の破損、焼損や火災の原因となります。(詳細はP7~8を参照ください。)</p> 	<p>■皮膚・衣服に電解液が付着した時の処置 直ちに多量の水で洗い流し、石鹸で十分に洗ってください。やけど、衣服の損傷の原因となります。</p> 
--	---	--

<p>■電気機器の直接接続禁止 配線が焼損し火災の原因となります。</p> 	<p>■異臭、液漏れ、変形した状態で使用しない 破損や液漏れによる車両損傷の原因となります。</p> 	<p>■排気孔はふさがらない バッテリーから発生するガスによって内圧が上昇して、液漏れ、バッテリー破裂の原因となります。</p> 
---	--	--

<p>■傾斜または横倒しの状態で運ばない 漏れた電解液により失明ややけど、けがの原因となります。</p> 	<p>■充電時の注意 要項表(P12~13)の普通充電電流(A)以上で充電しないでください。充電直後の取り付け時はスパーク、火気に注意してください。引火爆発の原因となります。詳細は充電器の取扱書に従ってください。</p> 	<p>■バッテリーを車両に取り付けただけで、充電しないでください 引火爆発や車両機器の損傷の原因となります。</p> 
--	--	--

## ⚠ 注意

### ■ バッテリーは重量物 取り扱い注意

横倒し、落下などによる  
けがや液漏れの原因とな  
ります。



### ■ バッテリーへの補充 は精製水を使用する

精製水に不純物が入ると、  
異臭、発熱、発火、液減り、  
有毒ガス発生  
などの原因と  
なります。



### ■ 車両に電解液が付 着した時の処置

直ちにウエスなどでふき  
取った後に、水で洗い流  
してください。



### ■ 床や地面に電解液 がこぼれた時の処置

重炭酸ソーダー(重曹)な  
どを泡が出なくなるまで  
散布した後、  
多量の水で  
洗い流し  
てください。



### ■ 電解液は指定のもの を使用してください

電解液は指定以外のもの  
を使用しないでください。



- バッテリーからは水素ガスが発生(特に充電終期)します。引火爆発の原因となりますので、バッテリーの近くに火気(マッチ、ライター、タバコなどの火、溶接機やグライディングなどの火花、端子部のスパークなど)を近づけたり発生させたりしないでください。



- バッテリーの点検や清掃の前には、車体の金属部分にふれるなど身体の静電気を逃がすようにしてください。静電気を帯電した身体でバッテリーを取り扱うとスパークにより引火爆発の原因となります。



- バッテリーの運搬や保管時は、転倒させたり、衝撃をあてたりしないでください。電解液が漏れ失明ややけどの原因となります。



- バッテリーを水や海水のかかるような環境で使用しないでください。バッテリーの破損や火災の原因となります。

## 使用前のバッテリーの取り扱いと点検

- この項の内容は即用式バッテリーの取り扱い手順にしたがって説明しておりますが、液入り充電済みの状態でご購入されましたお客様も、日常点検の参考としていただくため、必ずお読みくださるようお願い致します。ご購入いただきました商品は早めにご使用いただき、長期在庫などにならないようご注意ください。

### 開梱前後の取り扱いと点検

バッテリーは電そうにヒビ、割れ、欠け、変形、異臭がないことを確認し、投げたり、落下させたり、倒したりしないよう丁寧に取り扱いください。

\* このバッテリーは即用式です。即用性能が低下しますので使用直前までシール管(ゴムキャップ)、又は排気孔栓ならびに液口栓は絶対に取り除かないでください。

- 開梱後、バッテリーの外観を点検し、電そうにヒビ、割れ、欠け、変形、異臭がないことを確認してください。異常が認められた状態で使用されますと機器を傷めるほか、漏電し、火災の原因となります。

- バッテリーは重量物です。腰を痛めたり、落下などによるけがや、器物の損傷に注意してください。

注) バッテリーご使用前(注液前)およびご使用中にバッテリー内部が負圧により短側面に少しへコミが見られる場合がありますが、ご使用上に問題はありません。

### 注液前の取り扱い

バッテリーにシール管(ゴムキャップ)、又は排気孔栓が取り付けられているものは、注液前にそれぞれの項目に従って取り外し、注液を行ってください。シール管(ゴムキャップ)、又は排気孔栓を取り付けたまま注液、充電、車両へ取り付けを行うと電そうが破裂し、失明、やけどや車体などを腐食する原因となります。



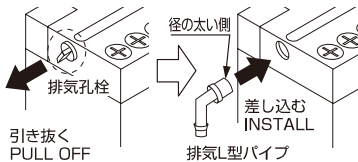
- シール管(ゴムキャップ)の場合  
電解液を注液する前に必ずシール管(ゴムキャップ)を取り外してください。

注) 但し、下記バッテリー形式には内部構造上シール管(ゴムキャップ)は装着されていません。

YB16CL-B、YB12C-A、12N7D-3B

## ●排気孔栓の場合

電解液を注入する前に必ず排気孔栓を取り外し、添付の排気L型パイプ(径の大きい方)を取り外した穴に奥まで差し込んでください。



## ■即用品バッテリー

即用品バッテリーは電解液を注入すれば、そのまま使用できますが、電解液を注入しただけでは満充電状態になっていません。より快適なご使用のために要項表に示す充電電流で2~3時間を目安に充電をおすすめします。

また、次のような場合は要項表に示す充電電流とP10「バッテリーの充電」に示す充電時間を参考に充電を行ってください。

- ・シール管(ゴムキャップ)および液口封口シールが外れているもの。
- ・注液後、30分以上経過後、端子電圧が12.4V未満の場合。
- ・冬期低温時およびエンジン始動が不十分な場合。

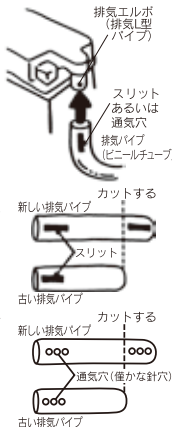
## ■注液後の取り扱い

排気パイプ(ビニールチューブ)はスリット側が必ずバッテリー側になるよう差し込んでください。

車体側ゴム排気管が固定されている場合は、そのままゴム排気管をご使用ください。

排気パイプ(ビニールチューブ)が添付されているものは、古いバッテリーの排気パイプ(ビニールチューブ)の長さに合わせて切断し、スリット側あるいは通気管(僅かな針穴)側を排気エルゴ、又は、排気L型パイプの根本まで確実に差し込んでください。

- 排気パイプ(ビニールチューブ)の取り付けが不十分な場合、引火爆発の原因となります。
- オートバイの傾きなどにより電解液が排気パイプ(ビニールチューブ)に排出される場合があります。排気パイプ(ビニールチューブ)の取り付けが不十分な場合、車体腐食の原因となります。

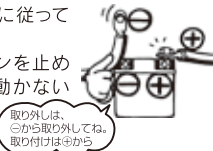


## ■バッテリーの取り外し、取り付け

バッテリーの交換は、必ず車両等の取扱説明書に従って自己責任のもとで行ってください。

バッテリーの取り外し、取り付けは必ずエンジンを止めキーを抜いてください。取り付けは振動などで動かないよう車両にしっかりと取り付けてください。

- 7 古いバッテリーを取り外すときは必ずアース



## ■注液

液口栓を外した後、適合電解液をUPPER LEVEL(最高液面線)まで注液してください。注液後20分静置し液量がUPPER LEVEL(最高液面線)より下がった場合は、同じ電解液を補充してから液口栓をしっかりと取り付けてください。

●注液の際、ボトルを強く押さないでください。ノズル先端がボトル容器から外れる可能性があります。

## ●お客様へ

「毒物及び劇物取締法」に基づき保健衛生上、また安全上から原則として液入り状態のバッテリーにして販売しています。液別状態でのご購入については販売店にてご相談ください。

## ●販売店様へ

電解液は「毒物及び劇物取締法」に従って取り扱い関係上、液別状態でのご販売は行政機関への販売業登録の届出と手続きが必要です。販売業登録をされていない場合は電解液注液後、液入り状態にしてご販売ください。

●バッテリーの取り扱い方法や危険性を十分理解していないもの(こどもなど)に注液をさせないでください。失明ややけどの原因となります。

●バッテリーを車両に搭載した状態で注液をしないでください。車両損傷の原因となります。

●指定の電解液(専用電解液)以外使用しないでください。

●注液後の残液には、重碳酸ソーダ(重曹)などを泡がなくなるまで入れ、多量の水で薄めて中和してから、廃棄してください。

●電解液の空容器は、残液がないことを確認し、多量の水で十分に洗浄の上、条例に従い廃棄してください。



側(⊖端子)から始め、新しいバッテリーの取り付けは⊕端子から始めてください。また、絶対に逆接続しないよう、注意して取り付けてください(取り付け後、ケーブル端子の金属部にグリス塗布などの防錆処理を施すことを推奨します)。

●バッテリーの取り扱い方や危険性を十分理解していないもの(子どもなど)に取り外し、取り付けをさせないでください。

●バッテリーを取り付ける際、金属工具などによって⊕と⊖を接触させないでください。スパークにより引火爆発や火災の原因となります。

●バッテリーの取り外し、取り付けは必ずエンジンを止めキーを抜き、ライトなどのスイッチがON(入)の状態では行わないでください。引火爆発の原因となります。

●バッテリーの⊕端子には⊕リード線を⊖端子には⊖リード線を間違わないよう注意し、確実に取り付けてください。逆接続は電気回路の故障や配線の焼失、引火爆発の原因となります。

●バッテリーを車両に取り付ける場合は、排気パイプ(ビニールチューブ)を折り曲げたり、押しつぶしたりしないように付けてください。排気パイプ(ビニールチューブ)取り付け部からの液漏れや電そうが破裂し、失明、やけどや車体などを腐食する原因となります。

●バッテリーは、振動などで動かないよう車両にしっかりと取り付けてください。取り付けが不十分であると、転倒や液漏れの原因となります。

●バッテリーは、搭載されているものと同等の容量(Ah)のものと取り換えてください。取り換えを誤るとバッテリー内部が破損し、爆発の原因となります。

●バッテリーは端子位置の異なるものと取り換えないでください。接続を誤ると、接続ケーブルの損傷や、車両火災の原因となります。

## 始動

車両への取り付けが完了したらエンジンを始動してください。尚、始動操作は5秒以内とし、1回で始動しない場合は10秒位休止後、再び始動操作を行ってください。ただし、この操作を数回行っても始動しない場合は、バッテリーや始動回路などを調べてください。



## 使用中の点検

### 補水

1ヶ月に1度は電解液面高さを点検してください。液量が「UPPER LEVEL(最高液面線)」「LOWER LEVEL(最低液面線)」間の半分以下に下がってしまえば精製水を「UPPER LEVEL(最高液面線)」まで補充してください。

●バッテリーは電解液面を「LOWER LEVEL(最低液面線)」以下にしないでください。

短寿命、発熱や爆発の原因となります。

●バッテリーへは精製水以外は入れないでください。(希硫酸は補充しないでください)

不純物を入れた場合、発熱、発火、有毒ガス発生の原因となります。

●補水後は、漏液しないよう、液口栓をしっかり取り付けてください。

●YHD-12Hの注液および補水

バッテリー形式YHD-12Hは液面が外から見えないため、下図に示す通り、液口スリーブの先端(UPPER LEVEL)に液面位置が合うまで注液および補水してください。ご使用中に液面位置がセパレータ上部付近(LOWER LEVEL)まで低下した場合、補水してください。



### バッテリーの清掃

水で濡らした布で清掃してください。

※ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤、洗剤、化学ぞうきんを使用しないでください。バッテリーの破損や液漏れの原因となることがあります。

### 端子

バッテリーは常に清潔にしてください。電解液が付着していると車体、端子およびケーブルなどが腐食します。

腐食を発見したら腐食を取り除き、直ちに水で洗い乾燥させてください。端子の腐食が著しい場合は新品と交換してください。

●バッテリーの端子を改造しないでください。引火爆発や液漏れの原因となります。

●バッテリーの端子に直接電気機器を接続しないでください。配線が焼損し、車両火災の原因となります。



## バッテリーの充電(使用中のメンテナンス)

エンジンが始動しない場合や、端子電圧が12.4V未満の場合はバッテリーが放電していますので、要項表に示す充電電流で充電を行ってください。放電したまま放置すると使用できなくなります。

尚、以下の表は回路電圧(オープン電圧)での充電時間の目安ですが、充電時間は充電器により異なりますので、充電器の取扱説明書の充電時間もあわせて参照ください。

回路電圧(V)	充電時間の目安
12.4	4時間以内
12.3	6時間以内
12.2	8時間以内
12.1	10時間以内
12.0	12時間以内
11.8	15~20時間以内

- 充電器は、電源がOFF(切)になっていることを確かめてからお使いください。ON(入)の状態ではバッテリーに接続するとスパークが発生し、引火爆発の原因となります。
- ブースト(始動補助)機能付き充電器の使用は、充電器の取扱説明書に従ってください。取り扱いを誤るとバッテリーの爆発や車両・機器の損傷の原因となります。
- 充電は風通しの良いところで行い、火気を近づけないでください。引火爆発の原因となります。
- 充電器の⊕側とバッテリーの⊕端子、充電の⊖側とバッテリーの⊖端子を接続してください。接続を誤ると、電気回路の故障や配線が焼損する原因となります。
- 車両に取り付けた状態での充電器による充電は行わないでください。バッテリーの引火爆発や車両機器の損傷の原因となります。
- 充電は要項表の充電電流と充電時間を守ってください。充電方法を誤ると、液漏れや引火爆発の原因となることがあります。尚、急速充電はできるだけ行わないでください。



## バッテリーの寿命

バッテリーは使用中に、その容量が徐々に低下し、寿命となります。充電しても性能が回復しないものは寿命です。

● 寿命は、次の要因によって短縮されます。

- ・ 高温(エンジンからの熱などの環境温度)。

- ・ 使用頻度(使用が少なすぎても、多すぎても影響を受ける)。
- ・ 充電不足(充電・放電のバランスが放電側の場合や、発電機の故障などによる供給不足)。
- ・ 過酷な使用(寒冷地での多用、充電不足での使用など)。
- ・ 保守の不備(端子部分の緩みによる接触不良、ランプ類の消し忘れなど)によって、バッテリーあがりした場合)。
- ・ 過剰な充電(レギュレータの故障、完了時点を過ぎても充電を終了しないなどで充電し過ぎた場合)。

● 寿命末期には次のような兆候が起こります。

- ・ スターターモーターの回転音がいつもより低くて弱い。
- ・ 方向指示器の動作が遅い、暗い。

これらの兆候が現れたときは、「バッテリーの充電(使用中のメンテナンス)」の項にしたがってバッテリーを充電してください。充電後も兆候がなくなる場合は、バッテリーの交換をおすすめ致しますので、新たにGSユアサのオートバイ用バッテリーをお買い求めください。

## その他の取り扱い

### 使用しない場合は充電後に保管

ご購入後(即用式バッテリーの場合は注液後)すぐ使用しない、または車両を長時間使用しない場合は、要項表に示す充電電流とP10「バッテリーの充電」に示す充電時間を参考に充電を行ってください(バッテリーを車両に搭載した状態で充電を行わないでください)。

● 充電について(注液したバッテリーの場合)

保管中は自己放電を補うために充電を行ってください。

- ・ 夏季(5月~9月) 3~4ヶ月に1回
- ・ 冬季(10月~4月) 5~6ヶ月に1回
- ・ 端子電圧が12.4V未満の場合

※車両搭載された状態で保管した場合、車両のメモリー負荷などの暗電流により、著しく放電する場合があります。

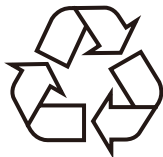
● 保管について

- ・ 高温、高湿、雨露、直射日光を受けることがない、また有害なガス、液滴、粉塵発生、浸水、水没の恐れのない風通しのよい場所に保管し、横倒しの状態や落下しやすい場所では保管しないでください。
- ・ こどもや取り扱い方法、危険を十分に理解しないものがられることのない場所に保管してください。
- ・ 火気を近づけたり、ショートさせないでください。
- ・ 保管中にバッテリーは使用しなくても自然に放電し使用できなくなる場合があります。ご購入後は速やかに使用を開始してください。



## 使用済みバッテリーの取り扱い

使用済みバッテリーはリサイクルされます。  
ご不要になった使用済みバッテリーを放置したり、一般のゴミと一緒に捨てたりしないでください。  
新しいバッテリーをご購入の販売店に引き取りをご依頼ください。



Pb

### リサイクル推進にご協力を!!

- 使用済みバッテリーには金属工具などにより  
⊕⊖を接触させたり、火気を近づけたりしないでください。引火爆発や火災の原因となります。



## 要項表

形 式	電圧 (V)	10時間率容量 (Ah)	充電電流 (A)
6N2-2A,-2A-4,-2A-7,-2A-8,-2A-9	6	2.0	0.2
6N2A-2C,-2C-3,-2C-4			
6N4-2A,-2A-2,-2A-4,-2A-7,-2A-8,-2A-9		4.0	0.4
6N4A-4D			
6N4B-2A,-2A-3		5.5	0.6
6N5.5-1D			
6N6-1D-2			
6N6-3B,-3B-1		6.0	0.8
6YB8L-B			
6N11A-3A		11.0	1.1
6YB11-2D			
6N12A-2C,-2D	12.0	1.2	
YB2.5L-C,-C-3			
YB3L-A,-B	12	2.5	0.3
YB4L-B			
YB5L-B		4.0	0.4
12N5.5-3B,-4A			
12N5.5A-3B		5.5	0.6
YB6-B			
12N7D-3B		6.0	0.7
		7.0	0.7

## 要項表

形 式	電圧 (V)	10時間率容量 (Ah)	充電電流 (A)		
YB7BL-A	12	7.0	0.7		
YB7C-A					
YB7-A		8.0	0.8		
YB7L-B					
YB9-B		9.0	0.9		
YB9L-A2,-B					
YB10L-A		10.0	1.0		
YB12A-AK					
YB10L-A2,-B,-B2		11.0	1.1		
YB12B-B2					
YB12A-A,-B,-B2		12.0	1.2		
YB12AL-A2					
YB12C-A		14.0	1.4		
SYB14L-A2					
YB14-A2,-B2					
YB14A-A2					
YB14L-A1,-A2,-B2					
HYB16A-AB				16.0	1.6
YB16AL-A2					
YB16B-A,-A1				18.0	1.8
YB18L-A					
YB16-B	19.0			1.9	
YB16CL-B					
YB16L-B	20.0	2.0			
Y50-N18L-A,-A3					
Y60-N24L-A	28.0	2.8			
53030					
YHD-12H	29.0	2.9			

<ご相談窓口>

株式会社 GSユアサ

(お客様相談室) 0120-431-211 (フリーダイヤル)

受付：月～金（年末年始、休日など除く）9時～17時

※バッテリーの故障や寿命の判断など、ご相談内容によっては  
購入店（通信販売、ネット販売等含む）にご相談いただく場合があります。

# 補償条件

本製品は厳密な品質管理と検査の上、お届けしておりますが、万一ご購入後、補償期間内に正常なご使用状態で不具合が生じた場合は、ご購入店（通信販売、ネット販売等含む）で点検・調査の上、下記の条件により補償させていただきます。

## 1. 補償内容

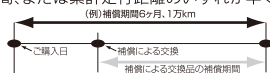
下記の「補償の対象」「補償期間」に従って、無償で「新品」と交換させていただきます。またバッテリー交換以外の責はご容赦願います。尚、補償適用により新品交換した場合、補償期間は当初ご購入いただいた時点からの補償期間が適用されます。

## 2. 補償の対象（国内使用品に限る）

製造上あるいは材料上の不具合により使用不能となったもの（充電で回復する単なる放電状態は適用外ですのでご了承ください）。

## 3. 補償期間

補償期間はご購入日より起算した使用期間、または累計走行距離のいずれか早く到達した時とします（ご購入いただいた製品の補償期間については裏面をご確認ください）。



## 4. 適用除外

補償期間内であっても下記の場合、補償は適用されません。

- ① 補償書がない場合、または必要事項が記入されていない場合
- ② 単なるバッテリーあがりなど充電により回復するもの（但し、充電により回復した場合の充電は有料となる場合があります）
- ③ 業務用車両、教習車両に使用された場合
- ④ 天災、地震、火災、海難、動乱などによるバッテリーの破損ならびに故障
- ⑤ 使用上の酷使、手入れ不十分、過失または事故によって生じた故障と認められるもの
  - （ア） 電そう、あるいはふたの変形、破損したもの
  - （イ） 電装品などの故障、欠陥により生じた事故
  - （ウ） バッテリーメーカーの指定する電解液以外のものを注液した場合
  - （エ） ご購入後保管期間中、放電したまま放置した場合
  - （オ） 逆接続充電されたもの
  - （カ） 交通事故による破損・故障・機能低下の場合
  - （キ） バッテリーを修理・改造した場合
  - （ク） 過負荷となるアクセサリーを使用した場合
  - （ケ） 車両搭載のままご使用ならずコンピューターメモリー負荷（暗電流）により放電した場合
  - （コ） レースなどのスポーツ用途で使用された場合
  - （サ） ご購入後、保管中の自己放電によるもの
  - （シ） 過補水、雨水、洗車時の水の浸入により液あふれが生じた場合
- ⑥ 車両自体の原因による場合
  - たとえば、レギュレーターの設定電圧が基準値を越えて過充電となった場合
- ⑦ エンジン始動および点灯以外の用途に使用したり、適合外の車両に使用した場合
- ⑧ 補償書記載以外の車両に載せ替えた場合
- ⑨ バッテリーの搭載位置、車両懸架緩衝装置、充電装置などに改造が加えられた車両で使用された場合
- ⑩ 不具合の車両がチェックできない場合
- ⑪ 所有者が変更となった場合

注意：ご購入店（通信販売、ネット販売等含む）以外での補償はできませんのでご注意ください。